

# News Letter

世界に賛美と福音を

工藤篤子ワーシップ・ミニストリーズ

Vol.91

AUTUMN  
2023

<https://akworship.com/>



AKWM

## とう せい 頭 声

工藤篤子ワーシップ・  
ミニストリーズ 代表

工藤 篤子



主にむかって歌い、そのみ名をほめよ。  
日ごとにその救を宣べ伝えよ。

(詩篇 96 篇 2 節 口語訳)

スペイン音楽を学ぶために留学したヨーロッパでは、世界で活躍する多くの歌手たちに出会いました。その人たちに共通していたのは、声が体から離れていることでした。彼らは、その解放された声を、まるで手のひらで操るかのようには心の思いを自由自在に表現するのです。自分も彼らのように歌いたいと思いつつも、日本で出来る限り大きな声で歌えと教えられてきた私の声は、喉にへばり付いて硬くなり、揺れ、声を操るところか、いつまでたっても声に振り回される始末でした。

しかし、留学2年目にアメリカ人宣教師夫妻を通してクリスチャンになり、み言葉に従うことを通して、肉から解放され、聖霊の働きを体験するようになりました。すると、歌う声も肉から徐々に解放され、体から離れた声の出し方が分かるようになっていったのです。肉の声は、喉、さらには、舌、顎の関節に力が入っていることが多く、遠くまで響きません。けれどもその力が抜けると、声は頭蓋骨に響き、遠くまで響かせられるようになります。それが「頭声」と呼ばれる声です。

しかし、体から離れた声（肉から解放された声）を会得したと言えるまでには、長い時間を要しました。信仰生活も同じです。なかなか肉の思い、肉の欲、肉の行いを捨てられないのです。しかし、折々に遭遇する試練や困難を通りながら、肉が小さくなり、またそれを十字架につけ、そうやってみ言葉に従う時に、御霊の自由の中に入れられるようになっていきま

した。そうすると、いい声を出したい、人に賞賛されたいという思いからも徐々に解放され、骨に響く声の出し方がつかめるようになっていったのです。

歌のレッスンでは、ろうソクの火の前で声を出す練習をしたことがありました。目的は、火が揺れないように声を出すことです。息は普通鼻から吸いますが、響く声が出る時には、吸った息は、強い子音を発音する時以外は、口からはほとんど出ません。わずかには出ますが、口から10cmほど離れたろうソクの火が揺れることはありません。吸った息はまず肺に入り、その息は、声を発する時に腹筋の力で声帯を振動させ、その振動が頭蓋骨に響き、聞く者の耳に届くのです。

**主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹き入れられた。そこで人は生きた者となった。**

(創世記2:7)

この聖句の「命の息」は聖霊です。ですから、聖霊なる命の息を吸い、肉から解放されて、頭の骨に響く時、頭（かしら）はイエス様の象徴ですから、イエス様の中で響く声、聖霊の声となっていくのです。

今、クリスチャンの多くが、イエス様の来臨が近づいていると感じています。ですから、一人でも多くの人を救われるために、絶えず聖霊の息を吸い（み言葉を内に宿らせること）、肉ではなく、イエス様のうちに声を響かせ、機会を用いてイエス様を証しし、賛美し、福音を宣べ伝えていこうではありませんか。



## アウグスティヌスの音楽論



アウグスティヌス (ポティエチェリ画)

アンブロシウスの弟子であり、『告白』で有名なヒッポのアウグスティヌス（354-430）は、アンブロシウス同様、音楽的感性に秀で、『音楽論（De musica）』を書きました。それはやがて、中世の教育においても重要な役割を果たすようになり、宗教改革者ルターも彼の賛美論に深い影響を受けています。アウグスティヌスは神を賛美することの大切さを説き、特に詩篇を引用しながら一連の説教を行っています。

教会の父と呼ばれる神学者アウグスティヌスの信仰に結びつけられた音楽論は、それまでの音楽論を一転させ、今日の音楽理論に大きな影響を及ぼすようになります。それまでの音楽（ムシカ）とは、古代ギリシャでは、詩（歌詞）、音楽（旋律やリズム）、舞踏を包括したことでした。しかしアウグスティヌスにとって音楽とは、「正しく拍子をとる知識scientia bene modulandi」でした。実際には、彼はリズム論を展開した後、旋律論に移りたかっただけですが、最終的にそこには至りませんでした。特に詩篇を愛した彼は、そこから賛美のリズムを発見していったのではないかと思います。

彼の『音楽論』は、その後、中世の教会、修道院、大学において愛読されました。12世紀のパリ楽派がオルガナム（初期のポリフォニーの種々のスタイル）

の新しいリズム体系—それまでのリズムの不明瞭な聖歌に対し、音の長さをはっきり規定された音楽—を考案したのは、このアウグスティヌスのリズム論が背景となったことは間違いないようです。

西方教会の基礎は、信仰においても、賛美においても、アンブロシウスとアウグスティヌスという二人の偉業によって固められたのです。

## 東方教会から西方教会の時代へ

東方教会の難点は、皇帝がみ言葉に忠実であるとは限らないことです。ですから東方教会は、この点でしばしば信仰的な危機に瀕しました。逆に西方教会では、西ローマ帝国の滅亡が教会の強化につながりました。異民族（北ヨーロッパ民族）の侵入は教会に混乱を招きましたが、宣教はその北ヨーロッパに向かってさらに進んで行きました。ここから西方、ヨーロッパにキリスト教時代が確立されて行く中世の基礎が築かれて行ったのです。

## 中世の教会

500年頃から1500年頃までの、キリスト教会の約半分を占める千年を中世と呼びます。しかし東方教会には中世はありません。1453年にコンスタンティノポリスがトルコ軍によって侵略されるまで、東方教会では古代の伝統が続きます。

紀元6世紀～10世紀の中世前半500年は、教会の困難期でした。異民族の侵入、7世紀にはイスラム教勢力からの攻撃を受けます。この時代、オリゲネス、アンブロシウス、アウグスティヌスほどの信仰の利器も出現しませんでした。反面、修道院制度と宣教活動が拡大していきます。

## 工藤篤子 賛美CD 好評発売中 … ご注文、お問い合わせはAKWMホームページまたは事務局まで



主よ人の望みの喜びよ  
定価 1,500円 (税込)

「主よ人の望みの喜びよ」「マタイ受難曲アリア」「メサイヤ・アリア」「キリストにはかえられません」「アメイジング・グレイス」「主の祈り」など、たましいの歌 12曲。



よき力に守られて  
定価 2,500円 (税込)

ボンヘッファーの「よき力に守られて」を中心に、「あなたに」「神の恵み」「詩篇23篇」「ああ感謝せん」など14曲。



ほんとうの願い  
定価 3,000円 (税込)

リュート奏者、今村泰典氏の賛美曲、バッハ、カステッロ、シュツツの作品、「キリストには代えられません」「いつくしみ深き」など22曲。



神だけが Dios tan solo Dios  
定価 2,500円 (税込)

「安けさは川のごとく」「赤とんぼ」「荒城の月」「黄金のエルサレム」「私を平和の道具としてください」などライブ録音12曲。



カンシオン Canción  
定価 2,500円 (税込)

「きみは愛されるため生まれました」「ここにしえに真実なお方」「救い主イエスと」「なんて美しい都（ゴスペル）などライブ録音14曲。



Come To Me  
定価 3,000円 (税込)

「鹿のように」「安けさは川のごとく」「Via Dolorosa」「輝く日を仰ぐとき」「カドシュ」「いちわのすずめ」「アメイジング・グレイス」など18曲。



讚美 Adorar  
定価 1,500円 (税込)

中国語、台湾語賛美を中心とした「鹿のように」「丘に立てる荒削りの」「主は今生きておられる」「耶和華祝福満満」「主よ人の望みの喜びよ」「鳥のうた」など12曲。



## グレゴリウス大教皇

グレゴリオ聖歌の語源になった、グレゴリウス大教皇（在位590-604）はその後の1000年の中世カトリック教会の基礎を築きました。彼は、ローマの大貴族の出身でしたが、全財産を投じて貧民救済をし、七つの修道院を建て、自ら修道院生活に飛び込みました。その後教皇として教会の教職制にも貢献します。そして、司祭、主教、大主教、そして頂点の教皇に至るピラミッド型の階層（ヒエラルキー）を教会とみなした教皇制度を築きました。



グレゴリウス大教皇  
(ホセ・テ・リベラ画)

しかしながら、ここには一般会衆の占める地位はありませんでした。グレゴリウスは、アウグスティヌスの「恵みのみ、信仰のみ」から、神の恵みと一っしょに働く人間の努力、業績、善行が救いに不可欠だと説きました。また十分な善行を積めずに天国に入れない魂が待つ場所である「煉獄」の教えを説きました。彼自身は、教皇は「神の下僕の中の下僕」と言い、生涯、敬虔な生活を送りました。大きな働きをしたグレゴリウスですが、残念ながら、これを機に、教会は徐々に「恵み」から離れて「行い」の生き方に傾いていくことになります。

音楽面では、ビザンツ典礼を参考としてローマ典礼を改革し、ミサでギリシャ語のキリエを歌うことを決めたのもグレゴリウスだと言われています。また、それまで復活祭のみにおいて歌われていたアレルヤ唱を、受難週やさしさを伴うのある時期を除いて、一年を通して歌わせるようにしたのも彼だと言われています。

## グレゴリオ聖歌歌唱法の変遷

ここで確認しておきたいのは、グレゴリオ聖歌の創始者はグレゴリウス教皇ではなく、ローマ典礼で歌われていた単旋律聖歌に、ローマ典礼改革者であるグレゴリウス教皇の名が付けられたにすぎないということです。

現在歌い継がれているのは、19世紀の終わりからのフランスのソレム修道院で研究されたソレム唱法と呼ばれるもので、グレゴリオ聖歌としてCDやYouTubeなどで聞くことができます。



しかし、多くのグレゴリオ聖歌研究者によると、当時の唱法は、はるかにたくさんさんのメリスマ（節回し、

グレゴリオ聖歌の楽譜。赤字は歌唱抑揚のメモ書き。「アレルヤ！キリストは必ず苦難を受け、死からよみがえり、栄光に入らねばならない」

こぶし）があり、ダイナミックに歌唱されていたに違いないということです。それは、ローマ典礼聖歌が、ユダヤ音楽の流れを受けたビザンツ聖歌から影響を受けていたことから察することができます。また、アンブロシウス、アウグスティヌスの信仰や音楽論を受け継いで、ことばの抑揚と感情の流れに忠実に歌われていたとすれば、感謝と喜びにあふれる生き生きとした賛美だったのではないかと思います。

一説には、8世紀にカール大帝が、自分の権力を誇るためにグレゴリオ聖歌を利用したのではないかとされています。彼は全ヨーロッパの統一国家を夢見て、目的達成のために、政治権力だけではなく、精神的な力を借りるためにローマ教皇と手を結び、各地に聖歌隊学校を設立してローマ聖歌を普及させたのです。その結果、全ヨーロッパでラテン語による聖歌が歌われるようになり、言葉の意味も抑揚もよく分からずに歌唱されるどころでは、歌唱法も統一されていかなければならなかったのです。

## 賛美セミナーDVD CDも好評発売中



賛美セミナーⅡ  
DVD 2枚組

2015年11月7日大阪セミナー録画  
(テキスト付)  
定価 4,000円(税込)

1. 詩篇から学ぶ賛美
2. 賛美のいけにえ・キリストの賛美
3. ロックの起源・歴史とその影響
4. いろいろなるリズムとことばに即した賛美実演(野田常喜)



賛美セミナーⅠ  
DVD 2枚組

2013年11月4日大阪セミナー録画  
(テキスト付)  
定価 4,000円(税込)



賛美セミナーⅠ  
CD 4枚組

2013年11月9日東京セミナー録画  
(テキスト付)  
定価 4,000円(税込)

1. 賛美とは
2. 詩篇 51, 50 (悔い改めを通してささげる賛美)
3. ビート音楽の影響
4. 音楽と聖書

※内容はDVD CD共に同じです。

賛美セミナーⅡと賛美セミナーⅠのアイテムを併せてご注文される場合、特別価格でお求めいただけます。

## お知らせ

「賛美セミナー」開催をご希望、あるいはご検討いただける教会・団体がありましたら、  
ございましたら、  
お気軽に事務局まで、  
ご連絡、ご相談ください。

10月 Oct.

29日(日) 15:00~ 宝塚栄光教会 チャペル・コンサート

11月 Nov.

26日(日) 10:30~ 善通寺バプテスト教会 創立50周年記念  
賛美礼拝 & コンサート (香川県善通寺市)  
10:30~ 賛美礼拝 11:50~ コンサート

2日(日) 14:00~ 札幌聖書キリスト教会 クリスマス・コンサート

8日(金) 11:00~ 虹ヶ丘キリスト教会 クリスマス会  
会場：周防の森ロジ (山口県光市)

9日(土) 14:00~ ライトハウス宇部キリスト教会  
クリスマス・コンサート (山口県宇部市)

17日(日) 13:30~ 流山福音自由教会 クリスマス・コンサート  
(千葉県流山市)

## 主にあって愛する皆さま

主の御名をほめたたえます。

いつもAKWMの働きのためにお祈りとご支援をくださり、心から感謝いたします。

9月3日の新札幌聖書教会30周年記念コンサート、10月5日の第41回阪神女性の集い(芦屋ルナホール)を、感謝のうちに終えることができました。

新札幌聖書教会の朴 永基(パク・ヨンギ)先生は、30年前、韓国から、当時はまだ家もまばらだった原野、上野幌に親子6人でやって来られ、開拓伝道を始めました。ご苦労も多かったことと思いますが、地域の方々にとってもよくしてもらい、ここまで歩んでくることのできたそうです。今では、ここはエデンの街、ベニータウンと呼ばれる新興住宅街となりました。朴先生は、新札幌聖書教会の他に、これまで、北海道の各地に6つの教会を開拓されました。さらに北海道宣教が前進して行きますようお祈りください。



新札幌聖書教会コンサート後、朴先生ご夫妻とピアニストの大山小夜子さん

が入りました。徐々に快復していますが、日によってさまざまな症状が出、まだ目が離せない状況が続いています。また、同時期、グループホームから帰省した妹が発熱し、体調が戻るのに時間を要しています。どうやら夏バテの後遺症のようです。

そのため、9月はほとんどのレッスンをキャンセルし、10月5日の阪神女性の集いのためだけに関西に戻りました。コンサートでは、格別なご聖霊の導きと力の中で、歌い語らせていただくことができました。

阪神に行くたびに思い出すのは、1995年1月17日の阪神淡路大震災です。当時、私はドイツの開拓教会で伝道師として仕えていました。あの日、教会のアンデルード宣教師が電話をかけてきて、「アツコ、日本の阪神地区が大変なことになっている。今こそ日本に福音が語られなければならない時だ。主がいつかアツコを用いてくださるように」と、預言的なことを語ったのです。それまでドイツ人伝道に力を注いで来た私の中に、日本人への思いが沸き上がった時でした。その5年後、AKWM設立に導かれてからは、毎年、阪神地区のどこかで伝道コンサートをさせていただくようになりました。10月29日は、同地区にある宝塚栄光教会のコンサートです。どうぞお祈りください。

皆さまに、主の豊かな恵みがありますように!

工藤篤子



工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ 事務局

Atsuko Kudo Worship Ministries

AKWMの伝道活動は、皆様のお祈りと献金とご奉仕によって成り立っています。ご支援くださる皆様をこの活動の一員と考えています。この活動がますます主に用いられ、宣教が進みますように、どうぞ一員としてご参加、ご支援ください。

事務局

〒590-0027 大阪府堺市堺区榎元町5丁5番9号  
TEL.090-5241-5086 FAX.050-3153-0648

郵便振替口座 00930-1-165955 「工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ」

銀行振込口座 三菱UFJ銀行 瓦町支店(店番003)

普通預金0133752 「工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ」

※三菱UFJ銀行にお振り込みくださる場合はお名前を表示をお願いいたします。また、事務局にご連絡いただけますなら感謝です。



メールマガジン登録受付中!

office@akworship.com

メルマガ購読を希望される方や、その他のご連絡などは、上記のメールアドレスまでお願いします。

メールマガジン、ニュースレターは、下記のホームページでもご覧いただけます。



Website URL  
https://akworship.com/

※URLが変わりました。ブックマークの変更をお願いします。